

## 「地域と学校の新しいカンケイ」～WIN WIN より Happy Happy～

【2月21日放送内容】

DJ：今回は、長洲小学校の活動について、長洲小学校のコーディネーターの高谷さんと、社会教育課の増田さんにお話をお伺いします。お二方、よろしくお願いします。

高谷・増田：よろしくお願いします。

DJ：さて、増田さん。長洲小学校はどのような形で地域と学校の連携を進めてこられたんですか。

増田：はい。長洲小学校は、平成30年度に地域の皆さんが子どもたちや学校を応援しようとHappy 応援ネット（地域学校協働本部）を設置し、また、令和2年度に「地域とともにある学校づくり」を進めるためにコミュニティ・スクールを導入されました。

高谷：長洲小学校では、地域で子どもたちを支えたいという思いを込めてHappy 応援ネットのことを「長洲っ子ささえ隊」と名付け、学校を支えてくださる代表の方々が集まって会議を2か月に1回行っていました。

DJ：そうだったんですね。「長洲っ子ささえ隊」って可愛らしい名前ですね。長洲小学校ではコミュニティ・スクールになる前から、定期的に皆さんで子どもたちへの支援を話し合っていたんですね。

高谷：はい。コミュニティ・スクールを設置する前から、地域や保護者で学校を支援する活動が盛んで、たくさんの方が地域学校協働本部に登録されています。

DJ：なるほど。応援してくださる地域の方がたくさんいらっしゃるというのは、地域の皆さんが学校をとても大事に思っているってことですね。

高谷：はい。校長先生からお聴きしたのですが、長洲の地は昔、学問の神様として有名な菅原道真が太宰府に左遷された時に立ち寄った場所で、長洲小学校の校舎の北側にある松の木に船を繋いだそうです。松の木のそばに石碑があり、船をつないだことが記されています。この石碑は、長洲の有志の方が寄付されたものだそうです。

DJ：そうだったんですね。菅原道真のような有名な歴史上の人物の縁の地が、まさか身近にあるとは全く思っていませんでした。高谷さん、改めてすごいですね。

高谷：そうなんです。また、長洲小学校では、元々地域の方がお金を出して作られた学校だそうです。地域にある自分たちの学校として昔から地域の方に愛されていたそうです。それを聞いた私も、長洲小学校にますます愛着を感じました。長洲小学校の子どもたちにも、自分たちの学校が大好きになって欲しいと思います。

DJ：本当にそうですね。高谷さんの長洲小学校への熱い想いを語っていただいたんですけども、長洲小学校の地域学校協働活動をご紹介いただけますか。

高谷：はい。6年生の子どもたちが、毎年、尼崎市の伝統野菜「武庫一寸豆」の植え付けを小田中学校内の畑で行います。豆の苗は、JA 六甲武庫支店がご準備くださり、植え付けはPTA や社会福祉協議会小田支部、小田地域課の皆さんにご協力いただきました。子どもたちは、説明を受けた後、順番に畝に入り苗を植付け、「植付けは、意外と深く掘らないといけないんだね！」と、初めての経験でいろんなことに気づいたようです。

DJ：そうだったんですね。でも、子どもたちにとっても良い経験になったでしょうね。ところで、どうして長洲小学校の子どもたちが、小田中学校の畑で一寸豆を植えるんですか。

高谷：それには理由がありまして、長洲小学校の子どもたちは、小田中学校に入学します。6年生が自分たちで植付けた一寸豆を入学後の5月頃に収穫しています。地域の皆さんは収穫までの間、子どもたちのために畑のお世話をしてくださっています。

DJ：なるほど。子どもたちにとっては、中学校に進学する楽しみが一つ増えますよね。素敵な取り組みです。いろいろな活動があるんですね。

高谷：そうですね。それから、4年生の子どもたちが地域の方と一緒に「味噌づくり」をしました。健康増進すみれ会の皆さんにご指導いただき、地域の方やPTAの皆さんにも、大豆を圧力鍋で茹で、分量に合わせて麴と塩を袋に入れてくださるなど準備してくださいました。はじめに、私から作り方について説明したあと、子どもたちは10分から15分間かけて、袋に入った大豆をていねいにつぶし、麴と塩を混ぜ込む作業に取り組みました。普段食べている味噌ができるまで約半年もかかることや、混ぜ込み作業の大変さを知ると同時に、こうしてできるという発見や自分で作る楽しさを味わうことができたと思います。

増田：学校で味噌づくりの体験ができることはすごいことです。準備や当日の作業の支援は、なかなか大変ですよ。でも地域の方は、子どもたちに味噌づくり体験を楽しんでほしいと一生懸命に寄り添って指導してくださいました。地域の方は、「子どもたちに喜んでもらえてうれしい」と、笑顔でお話されていました。まさにHappy Happyの取り組みでしたね。

DJ：本当ですね。Happy Happyであり、WIN WINの関係ですよ。普段何気なく、食べているお味噌が、何からできていて、こんなに手間暇かけて作られるのだということに子どもたちは気づいてびっくりしたでしょうね。さて、長洲小学校の地域学校活動についてお話をお伺いしてきましたが、長洲小学校の特徴ある取組として「企業との連携」があるとお聞きしたんですが、高谷さん。企業と連携してどのようなことをされていていらっしゃるんですか。

高谷：はい。長洲小学校は、JR 尼崎駅に近いこともあって、古くから周辺に企業が多くあります。特にアサヒ飲料のアメリカンフットボールチーム「チャレンジャー」は、長洲小学校に深く関わっていただいています。その連携の一つとして「かけっこ教室」を行いました。

DJ：かけっこ教室。なんだか楽しそうですね。

高谷：はい。体育大会の前に「楽しく走りたい」「少しでも速く走れるようになりたい」「きれいなフォーム

で走りたい」という思いをもつ子どもたちを募集して、2回に渡ってかけっこ教室を開きました。1回目は PTA の方を中心に開催しました。陸上競技の専門の方をお呼びして、素早い動きのスタートの仕方や速く走るためのフォームなど教えてもらい、初めのタイムよりも伸びている子どもが多く、「速くなった！」との声が上がっていました。2回目に地域にある企業、アサヒ飲料の「アメリカンフットボールの選手」に来てもらい、さらに専門的に教えていただくことになりました。

増田：2回目の「かけっこ教室」は、雨のため体育館で行いました。アサヒ飲料のアメリカンフットボールの選手の皆さんが、早く走るコツを子どもたちに教えてくださいました。専門的な指導により、子どもたちは走る喜びを感じ、だいぶ早く走れるようになりました。また、アメリカンフットボールチームの代表の方がコミュニティ・スクールの学校運営協議会の委員として関わってくださることになり、体育の授業の支援として、選手の皆さんにフラッグフットボールを覚えてもらう計画もしてたんですよ。

高谷：そうなんです。とても楽しみにしていたんですが、残念ながらコロナ禍で中止になってしまいました。感染状況が落ち着いたら、ぜひ実現したいです。他にも、尼崎信用金庫の職員の方が、朝、仕事の前にお揃いのジャンパーを着て、横断歩道で子どもたちが安全に登校できるよう見守ってくださっています。

DJ：そうなんです。長洲小学校では、これまでの活動に加えて、保護者や地域の方からネットワークを更に広げ、様々な団体や企業と連携した取り組みを進められていることがよく分かりました。今回は、高谷さんと増田さんにお話をお伺いしました。お二方、どうもありがとうございました。

高谷・増田：ありがとうございました。

DJ：さて、来月は「社会教育課のコミュニティ・スクールの1年間の取り組み」について、社会教育課長の松田陽子さんと増田さんとの3人でお送りいたします。それでは、次回の放送もどうぞお楽しみに。